

指示要請の改善により救急救命士が現場到着から除細動実施までの時間が短縮された。

年齢別では、50歳代から急増し男性が多かった。

社会復帰した傷病者の疾患別では、心原性心停止に対する効果を認めた。

応急手当は、心室細動の頻度を増加させた。

【まとめ】救急救命士の増加と特定行為の指示要請の改善は、除細動実施時間の短縮に効果があった。

応急手当は心室細動の頻度を増加させる可能性が示唆された。

心原性心停止に対する早期除細動の有効性が示唆された。

4 学生からみた小児救急

— PALS (Pediatric Advanced Life Support) と救急臨床実習を経験して —

亀田 雅博

新潟大学医学部医学科

PALSとはPadiatric Advanced Life Supportの略で、BTLSやACLSの小児版といえるものです。2002年3月、春休みを利用しUSA, Louisville Jewish病院の見学に行く機会を得、このときPALSの講座があったので参加させていただきました。BLSがないと受講できないと思っていたのですが、ちゃっかり受講証を頂いたので就職の際の履歴書に書けるので形成外科の先生には感謝の念が耐えません。期限は2年で常にフレッシュに保つ必要がある資格で救急隊の方に親切に教えていただきました。非常に実践的であり、かつワークショップ形式で非常に判りやすかったです。そしてこのようなコースを受講したうえで臨床実習や臨床研修をするという事で、“実戦で使える”勉強を効率よくできると強く感じました。多くの医療従事者や救急隊の方々の受講をお薦めするとともに、大学病院や救命救急センターでの研修コースの設置、そして県全体の救急に対する教育やシステムを考えられる部門の設置を是非お願いしたいと思います。最後になりますが、学生の身分

で学会に迎えて頂きありがとうございました。そして暖かく迎えてご指導くださりありがとうございました。

5 BTLS (Basic Trauma Life Support) を受講して— ナースからみた BTLS の意義 —

大川 玲子・今井 淳子・目黒 信子

長岡赤十字病院救急救命センター

BTLSを受講したので、ナースの立場からその意義を考えてみた。慣れない手技に戸惑うことも多いが、事前に勉強することで合格することは可能である。BTLSの受講経験を救急救命センターに活かせる点は少なくない。すなわち、プレホスピタルでなされる処置の意味付けを理解することは、救命に向け、救急隊から病院への連携がスムーズに行われるということである。また、私たちは、目に見える外傷に惑わされがちであるが、重要な問題を見落とさない為にBTLSの観察の方法を実践することは有効である。よって、救急救命士に限らず、医師、看護師等の多くの方々がBTLSを経験されることをお薦めしたい。

6 BTLS, ACLS の course coordinate の経験

野木 俊二・関口 博史*・宮島 衛*

木下 秀則*・田中 敏春*・広瀬 保夫*

山崎 芳彦*

新潟市民病院総合診療科

同 救命救急センター*

BTLS, ACLS コースの共通点は、標準化された手順を教育するコースで、事前学習・講義、小グループ実習、ロールプレイ実習からなり、習得度評価をOSCEで行なうということである。「手順」は評価して判断して行動する一連の流れからなる。事前学習・講義では手順に関する基礎知識を頭で学び、小グループ実習では評価・行動に関わる手技を体で憶える。さらにシナリオを用いて行なうロールプレイ実習で判断力を鍛える。このような教育コースの開催に必要な3要素は人・物・場所である。人ではインストラクターが特に重要